

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 通所介護

事業所名（施設名）

かるいざわ敬老園デイサービスセンター

第三者評価の判断基準

a・・・着眼点をすべて実施している状態

b・・・着眼点が一つでも実施していないものがある状態

c・・・着眼点を一つも実施していない状態

実施していない状態

実施している状態

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1 支援の 基本	① 利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 利用者の心身の状況、ADL、睡眠・食事・排せつ、暮らしの意向、これまでの環境（物的・人的）、生活習慣等の把握をしている。 ■ 2 利用者一人ひとりの暮らしの意向を理解し、利用者一人ひとりに応じた生活となるよう支援を行っている。 ■ 3 利用者一人ひとりに応じた生活となっているかを検討し、改善する取り組みが組織的に継続して行われている。 ■ 4 サービス提供場面において、自立に配慮した援助を行っている。 ■ 5 自立、活動参加への動機づけを行っている。 ■ 6 利用者の趣味、興味、希望を把握し、活動に反映するとともに複数のメニューを用意している。 ■ 7 家族、ボランティアや地域住民の参加を得ることなどにより、活動の多彩化を図っている。 ■ 8 買い物、外出、地域の行事への参加など社会参加に係るプログラムを導入している。 ■ 9 利用者の家庭での生活、心身の状況を考慮し、利用者一人ひとりに配慮して活動に参加できるよう工夫している。 	利用者一人ひとりの心身の状況、これまでの社会環境や家庭環境、生活習慣等を家族や担当ケアマネージャー等から聞き利用者一人ひとりに応じた過ごし方が出来るように支援している。サービス提供に当っては基本的な事業所の一日の流れはあるが利用者の希望を伺い、一人ひとりの状態や様子を見たり相談しながら本人のペースで過ごせるよう柔軟に対応している。利用者の身体機能の維持と向上のための個別リハビリメニュー、利用者の趣味や希望に沿ったレクリエーション（趣味活動、地域行事への参加、行きたいところへの外出、季節を楽しむドライブなど）もあり利用者一人ひとりが主人公になって過せるような一日を工夫している。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1	② 利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10 利用者の考えや希望を十分に聴き取れるよう、さまざまな機会、方法でコミュニケーションを行っている。 ■ 11 利用者の思いや希望を聴きとったり読みとったりして、その内容をケアに生かしている。 ■ 12 日常生活で援助を行う際に、コミュニケーションの重要性を認識し、話しかけている。 ■ 13 話すことや意思表示が困難など特に配慮が必要な人には、個別の方法で行っている。 ■ 14 利用者への言葉づかいに対する配慮や節度ある接し方がなされている。とくに自尊心を傷つけるような言葉づかい、幼児語の使用、指示的な言葉を慎んでいる。 ■ 15 利用者への言葉づかいや接遇に関する、継続的な検討や研修を実施している。 ■ 16 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえるようにしている。 ■ 17 利用者が話したいことを話せる機会を作っている。 	<p>サービス向上人権啓発推進委員会が主催する人権尊重やプライバシー保護の研修が定期的開催されており、利用者の尊厳と権利を守ることが基本であるということを周知徹底している。職員は利用者との関わり時に一人ひとりの思いや暮らしの希望・意向について関心を持ち、把握するためのアプローチを一つひとつ丁寧に行っている。意思表示が困難な利用者には表情や仕草などから本心を推し測ったり、家族やケアマネージャーからの情報を参考に職員間で検討しつつ共有化を図っている。利用者アンケートからも利用者は職員と話がしやすく、どの職員も同じ対応してくれると職員間の意思疎通が出来ていることが窺えた。</p>
A	2 身体介護	① 入浴介助、清拭等を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 18 利用者の心身の状況や意向に合わせ、入浴形態・方法を採用し、入浴介助や清拭等の方法を工夫している。 ■ 19 入浴の誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。 ■ 20 入浴を拒否する人への誘導や介助方法を工夫している。 ■ 21 入浴前の浴室内の安全確認（湯温、備品等）を行っている。 ■ 22 脱衣室等の室温管理を行っている。 ■ 23 入浴後は、水分摂取、スキンケアを行っている。 ■ 24 入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。 	<p>入浴マニュアルがありその手順に沿って行われている。入浴前に健康チェックを行い、体温、血圧の基準を設け入浴の可否を定めている。再検の結果、中止する場合は入浴を一つの目的として通所する利用者もいるので家族に連絡し、状況に合わせて清拭に切り替えることもある。浴室は利用者の身体状況により安全に入浴できるよう一般浴、個浴、車椅子浴が用意されている。脱衣所は床暖となっている。法人が運営する他施設からタンクローリー車が二日毎に温泉を運んできており、利用者は毎回、温泉入浴を楽しんでいる。男性利用者が先に入りその後女性が入浴することが多いが一番最後に個浴での入浴を希望する方もいる。その日の調子や気分が拒む利用者にはタイミングをずらし声がけしたり、職員を替えるなどして気分よく入浴できるよう工夫している。自力で入浴できる利用者であっても安全のため脱衣所で見守り、声がけをしている。温泉に入ることによって「温泉はいい、湯に入った気がする」、「痛みが取れた」、「体の調子よくなった」と喜ぶ利用者が多い。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	①		<ul style="list-style-type: none"> ■ 25 入浴介助を安全に実施するための取り組みを行っている。 ■ 26 浴槽は、機械浴、リフト浴、一般浴、個浴等、いくつかの種類が用意されている。 ■ 27 シャワーチェア、その他の介護機器が用意されている。 ■ 28 利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。 ■ 29 感染症、心身の状況や意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。 ■ 30 家庭での入浴を安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	
A	2	② 排せつ介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 31 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつ介助の方法を工夫している。 ■ 32 排せつの自立に向けた働きかけをしている。 ■ 33 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。 ■ 34 排せつの誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。 ■ 35 利用者が気兼ねしないように手際よく、必要に応じて声かけを行いながら介助している。 ■ 36 トイレ（ポータブルトイレを含む）は、衛生や臭いに配慮し、清潔を保持している。 ■ 37 冬場のトイレの保温に配慮している。 ■ 38 トイレ内での転倒、転落を防止する等、排せつ介助を安全に実施するための取り組みを行っている。 ■ 39 おむつ・おむつカバー、便器等は、利用者に適したものが使用できるよう準備している。 	<p>「排泄」の介助方法が介護マニュアルの中にあり、羞恥心やプライバシーへの配慮が冒頭部分に記されている。オムツに関する研修は感染症対策委員会が主催している。職員は利用者一人ひとりの力や排泄状況、介護用品等の情報を共有しており、さり気なく見守り、支援している。使用している介護用品が本人にとって適切でない場合には連絡帳に記したり送り時に直接家族に助言することもある。排泄（特に排便）は家族が気にかけているのでその有無を連絡帳に記録し知らせている。リハビリパンツ（パット併用もあり）を使っている利用者が多いがオムツの方もいる。介護者である夫がフラットのオムツを購入し利用日に持参したので、息子さんにその旨を伝え日頃使用しているものの購入を依頼したこともある。利用者や家族に伝えなければならないことがあれば内容により担当ケアマネージャーに報告している。トイレは安全バーが設置されており車椅子利用者も使いやすく、介護するにも十分な広さがあり、清潔に保たれている。浴室の脱衣所のトイレはカーテンで仕切られている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
	2	②		<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 おむつ交換を行う際には、皮膚の観察、清拭等を行っている。 ■ 41 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。 ■ 42 家庭での排せつを安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	
A	2	③ 移乗、移動を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 43 利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。 ■ 44 移乗・移動の自立に向けた働きかけをしている。 ■ 45 移乗・移動の介助の安全な実施のための取り組みを行っている。 ■ 46 使用している福祉用具が、利用者の心身の状況に合っているかを確認している。 ■ 47 福祉用具に不備はないか等の点検を常時行っている。 ■ 48 移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。 ■ 49 移乗、移動している本人だけでなく、他の利用者の安全にも配慮している。 ■ 50 車イスや杖などを利用する場合に、移動しやすい環境整備を行っている。 ■ 51 利用者の心身の状況に合わせた福祉機器、福祉用具を準備している。 ■ 52 送迎サービスは、心身の負担軽減、利用者の希望、安全に配慮しながら実施している。 ■ 53 家庭での介護を安全、適切に行うため、利用者・家族に移乗、移動に関しての助言や福祉用具の利用については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	<p>玄関は広くスロープとなっており事業所内の所要所には手すりが設置され利用者の身体状況に合わせて支援できるようになっている。利用者には独歩の方もいるが車椅子、シルバーカー、U字歩行器等様々な福祉用具を使い事業所内を移動している。スムーズに移動できる広さも確保されている。椅子から車椅子に移乗する時、職員は回りの利用者に声を掛けてから移動支援をしている。福祉用具の点検は定期的（タイヤの空気圧、ネジの緩み、車輪の回転など）に行なっている。不具合が生じたりピックアップウォーカーを車輪に切り替えて欲しいなどの要望が出れば、破損部品を業者が納入した時に点検もお願いしている。送迎マニュアルもあり、ヤングドライバー研修を受けたり、交通安全について警察署員の講義などを受け、利用者の安全、安心に配慮した送迎に日々努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	④ 褥瘡の発生予防を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 54 皮膚の状態確認、清潔の確保の方法など、褥瘡の予防について、標準的な実施方法を確立している。 ■ 55 利用者の心身の状況に応じた体位変換や姿勢の変換を行っている。 ■ 56 必要に応じ、マッサージの実施、軟膏等の塗布を行っている。 ■ 57 傷や皮下組織のずれが起きないように安全に介助している。 ■ 58 標準的な実施方法について職員に周知徹底するため、研修や個別の指導等の方策を講じている。 ■ 59 家庭での褥瘡予防を適切に行うため、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	<p>褥創予防対策委員会があり、年1~2回研修会を開き、職員教育を行っている。現在若干名の方が褥創治療を受けており、入浴後看護師が処置している。入浴時の皮膚観察を充分に行い予防にも努めている。</p>
	3 食生活	① 食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 60 利用者の希望や好みを聴き、献立に反映させている。 ■ 61 食材に旬のものを使用するなど、献立に変化をもたせるよう工夫をしている。 ■ 62 料理にあった食器を使ったり、盛り付けの工夫をしている。 ■ 63 適温で食事を提供している。 ■ 64 利用者の状況に応じた、食堂の雰囲気づくりを工夫している。 ■ 65 座る席や一緒に食べる人について利用者の意向を聞き、テーブルや席の配置を配慮している。 	<p>利用者の嗜好調査を行い献立に活かしている。旬の食材や委託生産の法人オリジナル米が使われている。食事は保温車で運ばれ適温で配膳されている。一人ずつのお膳に御飯は茶碗、汁物はお椀、副菜は陶器の器と小鉢にと彩りよく盛り付けられていた。座るテーブルはくじ引きで決めることもある。職員も各テーブルに着き一緒に食事している。元寿司職人による本格的な握りを満喫したり、季節や行事に合わせた桜餅、ロールケーキ、おはぎ、ホットケーキなどのおやつ作りも楽しんでいる。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	② 食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 利用者の嚥下能力に合わせた飲み込みやすい食事（形状や調理方法）を工夫して提供している。 ■ 67 利用者自身で行える範囲を把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。 ■ 68 できる限り利用者のペースで食べられるように工夫するとともに、利用者の身体に負担がかからないよう配慮している。 ■ 69 嚥下しやすいようにできるだけ座位をとるなど、利用者の食事時の姿勢に常に配慮している。 ■ 70 誤嚥、喉に詰まったなど食事時の事故について、対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。 ■ 71 食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。 ■ 72 栄養士や医療スタッフと連携し、利用者の心身の状況に合わせ、栄養面・形態に配慮した食事を提供している。 ■ 73 経口での食事摂取が継続できるようにするための取り組みを行っている。 ■ 74 家庭での食事や水分摂取に関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	<p>食事介助マニュアルがあり、食事委員会も設置されている。刻み、一口大、ミキサー、カユなど咀嚼や嚥下能力に応じた食形態で一人ひとりにあわせ提供している。利用者がつかみにくいものは箸ではなくスプーンを勧めて本人が食べやすいように配慮している。事故発生予防及び発生時の対応指針があり、その中の対応マニュアルには誤嚥・誤飲に関する資料も綴られており職員は研修を通し十分理解している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	③ 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ■ 75 利用者の口腔清掃の自立の程度を把握している。 □ 76 一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施、評価・見直しをしている。 □ 77 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態および咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。 ■ 78 口腔機能を保持・改善するための体操（口腔体操等）を行っている。 ■ 79 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。 □ 80 食後に、利用者の状況に応じた口腔ケアおよび口腔内のチェックを行っている。 ■ 81 家庭での口腔ケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。 	<p>食時の前には口腔体操を行い、口から食べることが維持でき、美味しく楽しく食べ続けられるよう取り組んでいる。利用者は歯ブラシとコップを持参し、自宅の延長で食後、洗面所で磨くように習慣づけしている。中には時々拒否する方もいたり、歯ブラシを持参しない利用者もいるがうがいで促している。対応マニュアルに沿った誤嚥・誤飲研修において嚥下障害がある利用者には美味しく食事をする事以外に嚥下機能のリハビリや誤嚥性肺炎を予防するという意味からも口腔に係るケアの大切さを周知している。</p>
	4 認知症ケア	① 認知症の状態に配慮したケアを行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 利用者の日常生活能力、残存機能の評価を行っている。 ■ 83 周辺症状を呈する利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状に合わせたケアや生活上の配慮を行っている。 ■ 84 あらゆる場面で、支持的、受容的な関わり、態度を重視した援助を行っている。 ■ 85 利用者が日常生活の中でそれぞれ役割（家事等）が持てるように工夫している。 ■ 86 職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。 ■ 87 医療スタッフ等との連携のもと、周辺症状について分析を行い、支援内容を検討している。 ■ 88 利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。 	<p>利用者の日常生活能力はフェイスシートや利用登録者状況、要介護運動器機能向上計画、個別機能訓練計画等によって残存機能などの評価が実施されている。認知症や認知症の医療、ケア等に関する外部研修に出席した職員が会議で伝達研修を行い、内容を共有し合っている。認知症の症状について職員は十分理解している。周辺症状での困難事例はないが認知症の利用者には症状に併せて個別に支援している。利用者は洗濯物たたみ、お絞りたたみ、下膳、趣味活動、レクなど、事業所において何らかの仕事や役割がありデイサービスに来ることを楽しみにしている。行動の抑制や拘束に関しては身体拘束マニュアルがあり、職員は研修も受けており、書類に関しても周知している。やむを得ず拘束が必要な場合は身体拘束ゼロ委員会で検討し、必要な手続きを取るようになっている。認知症の利用者にはトイレに付き添うなど日常生活に合わせ支援していることを家族に伝えている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	4	<p>①</p> <p>② 認知症高齢者が安心・安全に生活できるよう、環境の整備を行っている。</p>		<p>■ 89 抑制・拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合には、必要な手続きをとっている。</p> <p>■ 90 認知症高齢者の家族会等家族支援のための会や、その他社会資源を家族に紹介している。</p> <p>■ 91 認知症の理解やケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p> <p>■ 92 サービス利用時の様子を家族に伝えるなどして、より良いケアの方法を家族と共有するようにしている。</p> <p>■ 93 利用者が安心・安全で落ち着ける環境となるよう工夫している。</p> <p>■ 94 利用者の行動が抑制されたり拘束されたりすることのないよう、環境に十分な工夫をしている。</p> <p>■ 95 危険物の保管、管理が適切に行われている。</p> <p>■ 96 異食や火傷等の事故防止のため、片付け、清掃が行われている。</p> <p>■ 97 共有スペースも、認知症高齢者が安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。</p> <p>■ 98 トイレ・風呂等、一目でわかるような表示をする等の工夫を行っている。</p>	<p>利用者が自由に行動でき安心していられるように施設や抑制、拘束などのない環境整備に取り組んでいる。職員は認知症高齢者を見守りながら必要に応じ声がけしたり支援し、不安や不穏につながる要素を取り除いている。刃物類、針、消毒薬、洗剤等の危険物は目につかない場所で管理し、針などは本数を毎日確認している。トイレは絵文字で浴室は「ゆ」と書かれた大判の暖簾で分かり易く表示されている。</p>
A	5 機能訓練 介護予防	① 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a	<p>■ 99 一人ひとりに応じた機能訓練のプログラムを作成し、実施、評価・見直しをしている。</p> <p>■ 100 介護予防活動も計画的に行い、評価・見直しをしている。</p> <p>■ 101 日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練・介護予防活動を行っている。</p> <p>■ 102 利用者が主体的に訓練を行えるように工夫をしている。</p>	<p>理学療法士が常駐し、利用者一人ひとりのリハビリ計画書（運動器機能向上計画書・個別機能訓練計画書）が作成されている。理学療法士と看護師は一人ひとりのリハビリ計画に沿って身体機能の維持向上に努めている。利用者は会話を楽しみながら1対1で機能訓練を受けている。理学療法士と看護師は毎月、一人ひとりの実施状況をふりかえり、目標達成度について評価し、見直しの報告書も作成している。利用者に異常が見られた場合には担当ケアマネージャーに連絡するようにしている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	5	①		<ul style="list-style-type: none"> ■ 103 利用者の状況に応じて、専門職（理学療法士、作業療法士等※）の助言・指導を受けている。 ※ここで「等」は、言語聴覚士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、看護師を指す。 ■ 104 認知症の症状の早期発見に努め、介護支援専門員を通して医療機関等につないでいる。 	
	6 健康管理、 衛生管理	① 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順が確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 105 利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。 ■ 106 利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立している。 ■ 107 職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。 ■ 108 体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 109 利用者ごとに看護・介護職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。 ■ 110 健康状態の記録を行っている。 ■ 111 迎え時に、その日の体調等について、家族から情報を得ている。 ■ 112 利用開始時・終了時には、必ず健康チェックを行っている。 ■ 113 異変があった場合には、家族、医師、または介護支援専門員に連絡する体制を確立している。 	利用者一人ひとりの日々の健康チェックが個人ファイルに記録されているので職員は利用者の日頃の状態を把握している。事業所に到着後は健康チェックが行われ利用者の健康状態を確認している。利用中に体調変化が起きた場合には緊急時の対応フローチャートに沿って医療機関と連携し、家族への連絡等も迅速に出来るようになっている。病気や体調変化時の対応、薬の効用と副作用等について看護師が勉強会を開き職員に周知を図っている。家族には健康状態、バイタルなどを連絡帳で報告している。サービス終了時の健康チェックは当日異常がみられた利用者や希望者を対象に行っている。

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	6	② 感染症や食中毒の発生予防を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 感染症や食中毒に対する予防対策、発生した場合の標準的な対応方法が確立されている。 ■ 115 職員の健康状態についてチェックし、インフルエンザ等の体調の変化を日常的に把握できる仕組みがある。 ■ 116 職員や職員の家族が感染症にかかった場合の対応方法が文書化されている。 ■ 117 職員に対して、インフルエンザ等必要な予防接種について、費用負担を支援し受けさせている。 ■ 118 感染症や食中毒の発生予防・対応方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 119 必要な手洗器・消毒薬等の設備機器等が設置されている。 ■ 120 家族、来館者への手洗いや手指消毒等の呼びかけをしている。 	<p>感染症マニュアルがあり、感染症対策委員会により感染症・食中毒に対する予防や発生した場合の対応手順等の研修を毎年開催し職員に周知している。手洗いに関しては手洗いチェッカーを使った研修も行なっている。毎年、インフルエンザ等の必要な予防接種について法人負担で全職員が受けている。正面玄関には消毒液入りの手洗器が設置されており来訪者への手洗いや手指消毒等を促している。</p>
	7 建物・設備	① 施設の建物・設備について、利用者の快適性に配慮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 建物・設備の点検を定期的に行い、問題点については改善するなど、快適性や安全を維持する取り組みをしている。 ■ 122 備品の点検を定期的に行い、常に故障や不具合、汚れなどがないように維持する取り組みをしている。 ■ 123 椅子・テーブル・ベッド等の家具、床・壁等の建物について、落ち着けるような雰囲気づくりに配慮している。 ■ 124 談話スペースを配置するなど、快適に時間を過ごせるよう配慮している。 ■ 125 利用者が思い思いに過ごせる工夫がされている。 ■ 126 ベッド、ソファ、畳の部屋など休息に適した環境の配慮がなされている。 	<p>建物や設備は定期的に点検し不具合があれば補修や入れ替えをしている。開設当初に牛乳パックと新聞紙で作った二人掛けの肘掛け椅子は向かい側に座る利用者と会話を楽しむのに具合が良いらしく、非常に気に入って使用している利用者があるため一部補修をしながら使い続けている。椅子に腰掛けて楽しめるマージャン卓もあり、時には囲む利用者もいるという。利用者は食後、ベッドかタタミコーナーで休憩している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	8 家族との連携	① 利用者の家族との連携を適切に行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 127 家族に対し、定期的および変化があった時に利用者の状況を報告している。 ■ 128 家族に対し、サービスの説明をしたり、要望を聞く機会を設けている。 ■ 129 家族との相談を定期的および必要時に行っている。また、その内容を記録している。 ■ 130 利用者の状況など報告すべき事項は、必ず家族に伝わるよう伝達方法を工夫している。 ■ 131 家族（主たる介護者）の心身の状況にも気を配り、必要に応じて介護支援専門員に報告している。 ■ 132 家族の介護負担が過重にならないよう、家族がどのような方法で介護・介助しているかを把握している。 ■ 133 家族（介護者）に対し、必要に応じ介護に関する助言や介護研修を行っている。 ■ 134 家族が必要とする情報提供（福祉サービス、介護に関するテキスト・資料、地域の家族会など）を行い、必要に応じて、介護支援専門員など専門職、関係組織につないでいる。 	<p>玄関の下駄箱の横にご意見箱とアンケート用紙が置かれている。送迎時には家族の様子を見たり、時には言葉を交わし意見や要望も伺うようにしている。利用者の様子は利用日ごとに連絡帳に書き込み報告し、大切なことは必ず伝わるように直に電話をしている。介護者や家族等に変化が見られた時には担当ケアマネージャーにも報告するようにしている。</p>